



電子技販

基板試作を強化

関東に営業拠点 香港でも受注

電子部品製造の電子技販(大阪府吹田市、北山寛樹社長)はデジタル機器分野の研究開発機関向けを中心としたプリント基板の試作事業を国内外で強化する。国内電機大

携帯電話や小型デジタル機器に用いられるフレキシブル基板の試作も手がける

デバイスで始めるのは、国内では最速2日で設計から基板実装までを終える試作サービス。基板設計、プリント基板の製作、部品調達、基板実装の4工程のうち、設計は香港現法が担当し、残る3工程は日本の電子技販本社が担当する。

柔軟性があり、携帯電話や小型デジタル機器などに用いられるフレキシブル基板の試作も金型を用いずにこなせるのが同社の強みで、設計を終えた試作品は実装まで本社

で最速2日でこなし、空輸などで顧客に届けるという。

香港現法ではこれまで電子部品の調達や量産品の営業を手がけていた。

取引先である国内電機大手などが研究開発部門を中国の製造拠点に移していることから同現法を活

用。現地の協力会社に委託している量産品の受託生産事業の拡大にもつなげる考えだ。

国内では、本社以外では初の拠点となる営業所を東京都内か横浜周辺に11年春にも開設する。同社の取引先の過半が関東地区の企業で、営業所開

設でサービス体制も強化する。

同社の10年10月期の売上高は約5億7000万円。試作部門の割合は1割弱だが、金額では前期に比べて3割程度増加した。成長事業である基板試作事業を強化し、新たな収益源に育てる。